

奈良のシカの実態把握（追加分）

奈良のシカ保護管理計画の策定に向けて、「Ⅰ. 奈良のシカを保護管理する意義」を踏まえつつ、その実態を把握するため、「Ⅱ. 奈良のシカの特質」と「Ⅲ. 奈良のシカの現状と課題」について、既往の調査や取り組みの成果等の基礎情報を収集し、下図のとおり体系的な整理を進めているところである。

なお、本資料では、第1回検討委員会での指摘事項を踏まえ、奈良のシカを保護管理する意義を整理した上で、①餌付けによる野生性の喪失、②交通事故の発生、③人身事故の発生、④農林業被害の増加の4点について実態把握を拡充した。

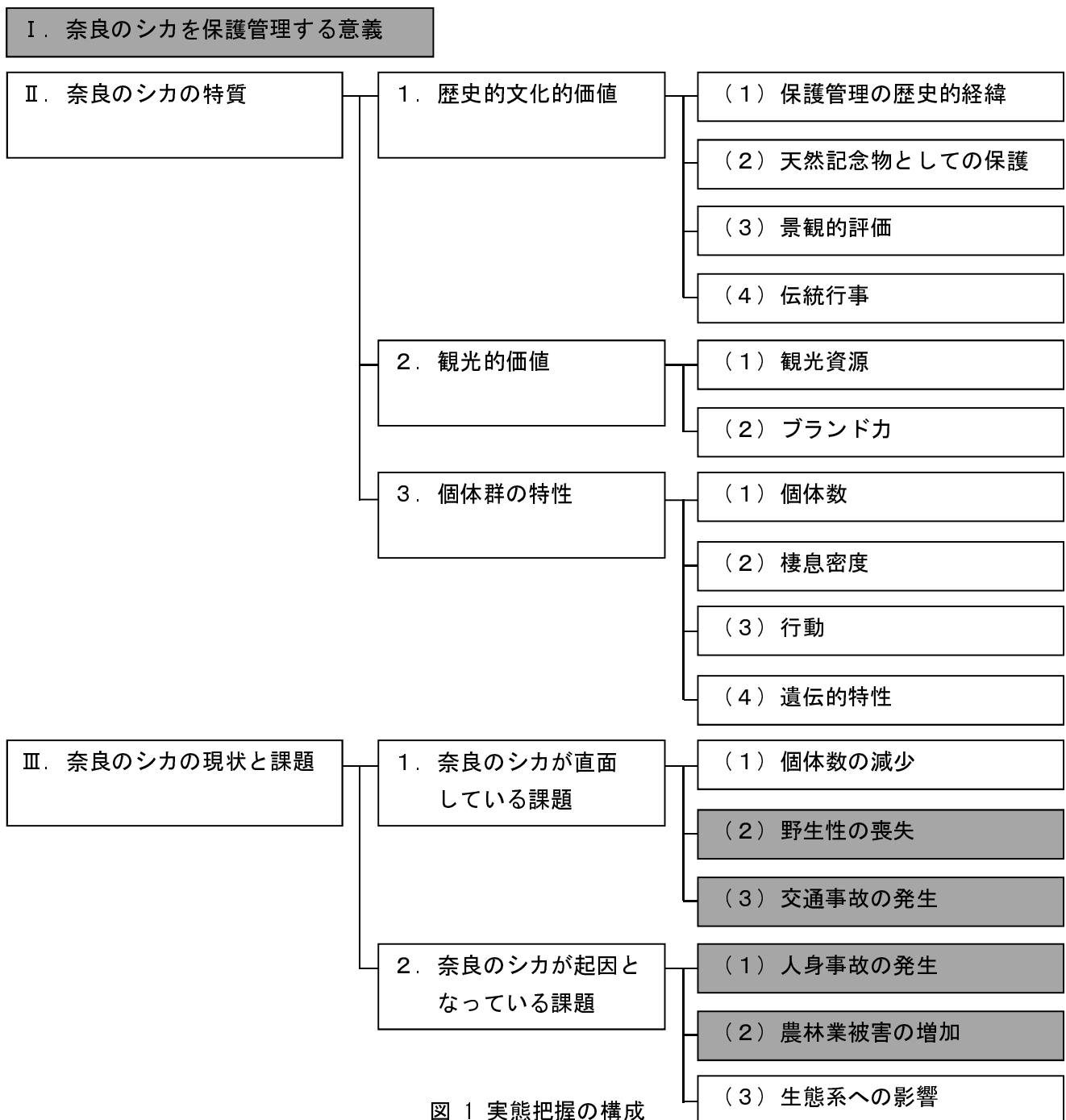


図 1 実態把握の構成

I. 奈良のシカを保護管理する意義

奈良のシカは古くから「神鹿」とされ、さまざまな形で古文書や伝承に登場している。このシカに対して、昭和 32 年（1957）9 月 18 日、旧奈良市一円を指定区域として天然記念物「奈良のシカ」の指定がなされた。

指定基準は動物の部第 3「自然環境における特有の動物又は動物群聚」であり、指定に際して以下の説明がなされている。

歴史的文化的価値、観光的価値を有しながら、野生生物としての個体群の特性を維持してきた特質が評価され、保護が図られている一方で、人身事故や農林業被害等の課題も抱えている。

このため、奈良のシカの愛護、及び、長きに渡り守り育まれてきた奈良のシカと人との共生の継続を図るため、生息地域の実情に応じた保護管理を行うこととする。

古来、神鹿として愛護されて来たものであって、春日大社境内・奈良公園およびその周辺に群棲する。苑地に群れ遊んで人の与える餌を求める様は、奈良の風景のなごやかな点景をなしている。よく馴致され、都市の近くでもその生態を観察することができる野生生物の群落として類の少いものである。

出典：『奈良県史跡名勝天然記念物集録 2』

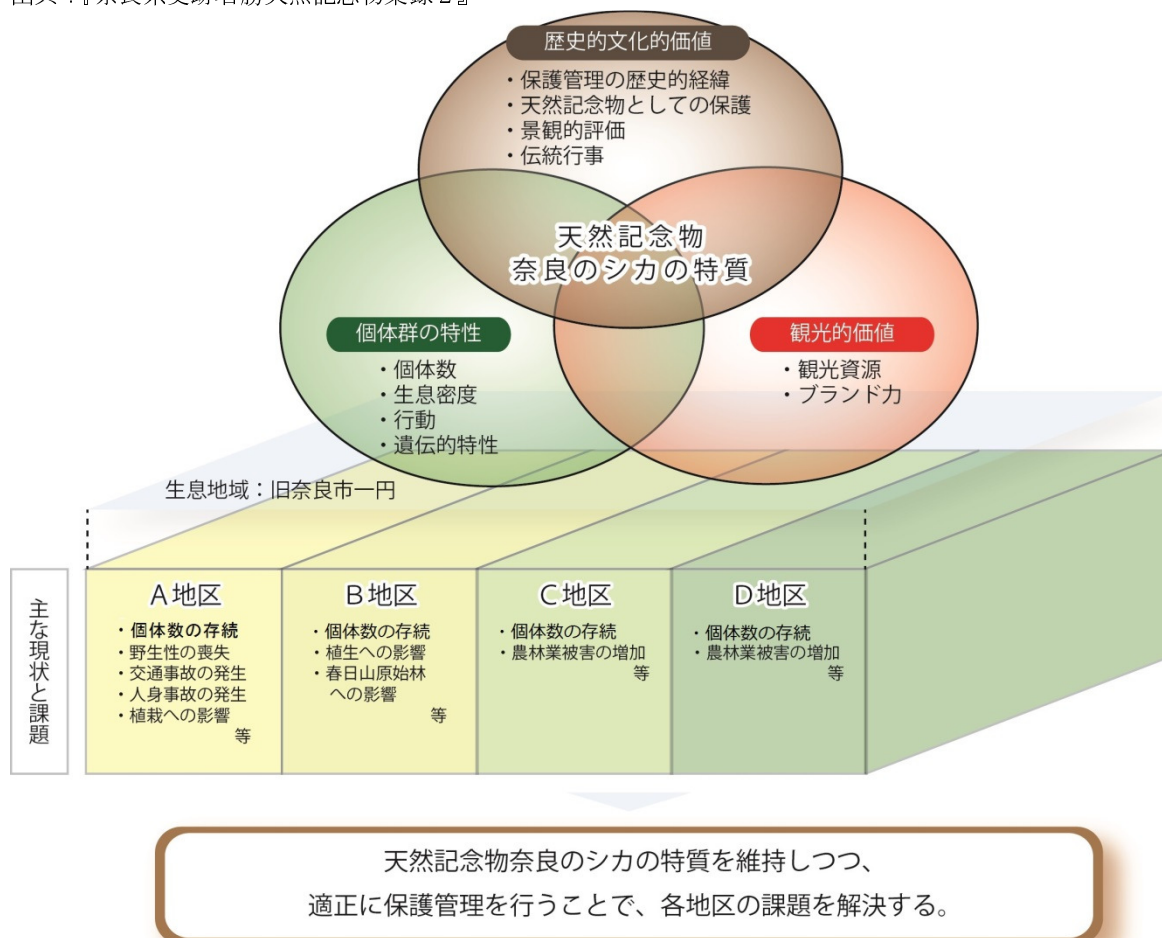
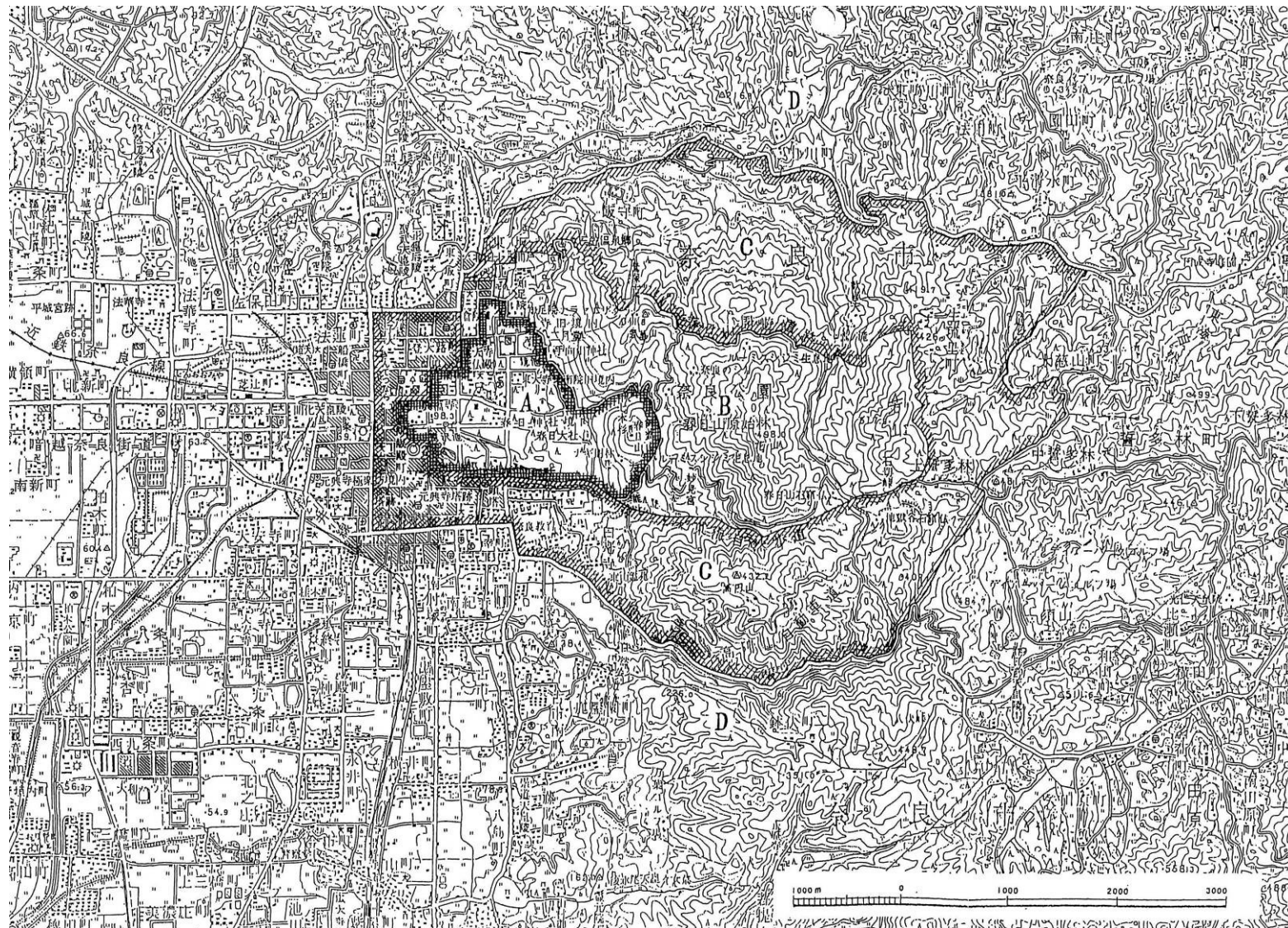


図 2 天然記念物奈良のシカの保護管理の概念図



出典：奈良県資料

図 3 天然記念物「奈良のシカ」生息地域

Ⅱ．奈良のシカの現状と課題

1．奈良のシカが直面している課題

1－1．野生性の喪失

(1)「餌付け」集団への変貌

鳥居ら（2005）は、奈良公園では野生では見られないような痩せた個体を目撃することができるが、県民などによる給餌や（一財）奈良の鹿愛護会による保護などにより、生きながらえている状況とも理解できると指摘している。

その一方で、立澤（2013）は、馴致（人付け）と野生の両立こそ神鹿の起源であった奈良のシカが、江戸時代以降の観光ブームを背景に「餌付け」集団へと変貌し、私たち現代人も基本的に人為関与を強めているため、野生性を失いつつあると危惧している。

「奈良のシカ」が天然記念物であること、その指定理由が、特定の歴史を背景に野生ながらよく馴致（自然馴致）している点であることは、よく知られている。しかし、1100 頭以上といわれる「奈良のシカ」が、はたしてどのぐらい人間に依存しているか、そもそも何を指して彼らが“野生”と言えるのか、実はあまり明らかにされていない。本章では、まず、「奈良のシカ」の生態学的な特性を概観した上で、「奈良のシカ」の“野生”と“馴致”の現状を検討し、今後の保全・管理のあり方を考えてみたい。

■食性

ニホンジカ、なかでも奈良公園のシカは、シバを食んでいるイメージが強い。もちろん、シバ類をはじめとするイネ科植物は、採食に対する高い耐性を獲得し、食べられてもよく生長するので、シカたちのベストパートナーである。しかし、実はシカたちは、草（草本）だけを食べているのではない。たとえば西南日本では、ノイチゴ（漿果）やドングリ（堅果）類などの嗜好性が高く、逆にシダ類のようにほぼ全国共通で“苦手”な植物もある。

他の大型草食獣と較べてニホンジカの食性で特徴的なのは、草本だけでなく、小低木の葉から高木の樹皮、はては落葉まで、食性の幅が非常に広い（広食性）ことと、その時々を利用できる植物へと食性をシフトすることにある。ニホンジカは、“草”食動物ではなく、まさしく“植”食動物なのである。

食性のシフトとは、それまでほとんど食べなかった“不嗜好”性植物を食べ始めるということで、たいていはそれまで好んで食べていた品目の利用可能量が減少することで起こる。奈良公園のシキミなどが近年よく食べられているのも、同じ理由によると思われる。かつてはシカの口が届く範囲にある枝葉だけがすっかりなくなる“ブラウジングライン”の形成でシカと森の関係が均衡（安定）すると考えられたこともあったが、その後の樹皮食いなどの勢いをみると、食性シフトはまだまだ進むように思える。

¹ 人付けとは、人間が危害を及ぼす存在でないことを動物に学習させ、個体間距離を縮めたり観察しやすくする手段や状態のこと。

なお、「奈良シカ」はシカ煎餅だけを食べていると思っている人もいるが、彼らには、春夏はシバ、秋冬はドングリと落ち葉というかなり明瞭な“主食”がある（仲未発表）。シカ煎餅を食べる個体は、近年増加していると言え 100 頭程度で、1 日せいぜい 50 枚、1 年で最もシカ煎餅を食べる秋の観光シーズンでも、採食量の割にも満たない（仲未発表）。馴化はしていても、“自然食”なのである。

このようにニホンジカの食性は幅広く、かつシフトするが、その採食戦略は性や齢によって異なる。基本的に、オスは草本に、メスは木本の実生や堅果に偏る傾向がある。オスは体サイズが大きく、身体を動かすエネルギーの獲得が優先されるため、現存量の大きい植物を選ぶ。一方、メスは、体が小さく胎児の成長や授乳に必要な栄養価の高い植物を選ぶというわけである。

（中略）

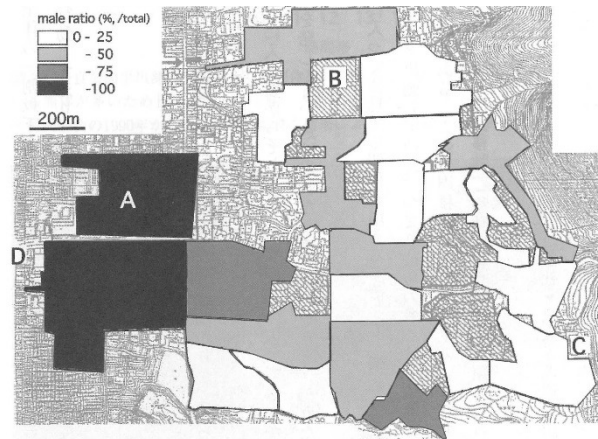


図2 奈良公園における区画別のオスの割合 A：興福寺、B：東大寺、C：春日大社、D：近鉄奈良駅。色が濃いほどオスの比率が大きく、オスは開けた草地に、メスは春日山に近く森林率の高い区画に多い。とくに春日大社参道沿いの主要日周移動ルート（C-D）に沿って、性比が大きく変化する。〔「奈良のシカ」市民調査〕の1993年夏の調査結果より筆者が作成。〔文献（1）〕

本章では割愛したが、神鹿としての「奈良のシカ」の成立過程を追うと、政治的なツールとして利用されてきた一方で、春日山と興福寺を結ぶ“神使”の日周移動ルートが常に意識された結果、神鹿の“野生性”が担保されていたという事実に行き当たる。ここにおいて、天然記念物指定時にも重視された、「奈良のシカ」の歴史・文化的背景と、その生態学的特性とが重なり合う。つまり、「奈良のシカ」の“野生”を維持することが、すなわち神鹿の歴史・文化を“生きた形で”維持し後世に伝えることになるのである。

一方、「馴致」については、それが「人付け」の意味であり、「餌付け」では決してないということを強調しておきたい。「人付け」とは、人間が危害を及ぼす存在でないことを動物に学習させ、個体間距離を縮めたり観察しやすくする手段や状態のことであり、食や行動を量的・質的に変化させる「餌付け」とは異なるものである。もちろん、人付け個体は餌付けもされ易く、管理上、一層の注意が必要だが、人付け自体は動物の生活史を大きく変えるものではなく、神鹿の起源もそこ（人付け）にこそあると思われる（立澤・藤田、作成中）。しかし、江戸時代以降の観光ブームを背景に、神鹿は「餌付け」集団へと変貌し、私たち現代人も基本的にその関係を強化し、「奈良のシカ」は変質し続けている。しかし、それにもかかわらず大半のシカたちは、まだ“野生性”を維持している。人付け（馴致）と野生は両立するのであり、重要なのは人間側が「野性」と「野生」の切り分けを行うことにある。これ以上「奈良のシカ」の本質を失う前に、攪乱（介入）の度合いを増さない工夫を進める必要があるだろう。

出典：立澤史郎『奈良のシカ』の生態と管理－“野生”と“馴致”は両立するか、前迫ゆり編「世界遺産春日山原始林―照葉樹林とシカをめぐる生態と文化」、平成25年（2013）3月30日、194頁～212頁

(2) 給餌に関するアンケート結果

1) 目的

奈良公園におけるシカへの給餌の現状を把握する上で、シカ煎餅の果たしている役割を無視することはできない。しかしながら、前述で、立澤（2013）が指摘しているとおり、シカ煎餅を最も食べる秋の行楽シーズンであっても、採取量の1割に至っていない。つまり、シカ煎餅を与えるという行為は、人間が危害を及ぼす存在でないことを動物に学習させ、個体間距離を縮めたり、観察しやすくする手段や状態である「人付け」の範囲に十分収まっており、食や行動を量的・質的に変化させる「餌付け」とは異なるものである。

その一方で、奈良公園及びその周辺では、店舗からでる残飯や野菜くずをシカに与えたり、公園外から日常的に野菜くず等を持ち込みシカに与えたりする行為が確認されている。この行為は、天然記念物指定時に評価された、「よく馴致しつつも、都市の近くでもその生態を観察することができる野生生物の群落として類の少ないものである」という奈良のシカが有する特質（野生性）を損ね、「餌付け」集団へと変貌させる一因である。

このため、奈良公園及びその周辺において、残飯や野生くずなどをシカに与える「餌付け」の行為について、その現状を把握することを目的にアンケート調査を実施した。

2) 調査対象及び回収数

アンケートは、奈良公園及びその周辺において経営されている飲食店、計 87 店舗を対象に実施した。

調査期間は、平成 26 年（2014）3 月 7 日（金）から平成 26 年（2014）3 月 23 日（日）までの 17 日間として、郵送による配布回収で実施した。その結果、40 店舗（45.9%）から回答を得た。なお、後述のアンケート結果は、回答を得た 40 店舗を母数として分析を行った。

3) アンケート結果

①奈良のシカについて

■生態に対する印象

奈良のシカは、野生動物だと思いますか。当てはまるもの 1 つに○を付けてください。

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. 純粋な野生のシカである | 2. 人馴れが進んでいるが、野生である |
| 3. 飼育されている | 4. その他 |

野生動物である奈良のシカの生態について、どのように感じられているかを質問したところ、「人馴れが進んでいるが、野生である」と考えている方が 90.0%であった。その一方で「飼育されている」（7.5%）と考えている方もいることが確認できた。

表 1 奈良のシカの生態に対する印象

選択肢	回答者数	構成比
純粋な野生のシカである	0	0.0%
人馴れが進んでいるが、野生である	36	90.0%
飼育されている	3	7.5%
その他	0	0.0%
不明	1	2.5%
合計	40	100.0%

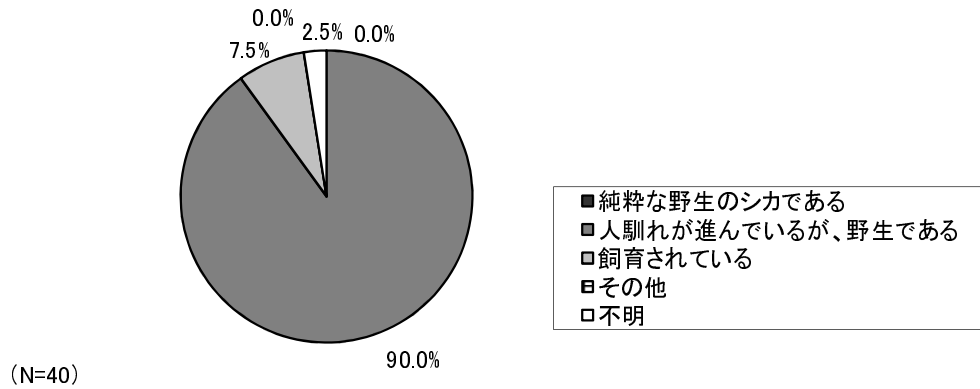


図 4 奈良のシカの生態に対する印象

■食性

奈良のシカは、何食だと思いますか。当てはまるもの 1 つに○を付けてください。

1. 草食 2. 雑食 3. 肉食 4. その他

奈良のシカの食性について質問したところ、「草食」(50.0%) であると回答された方が半数を占めており、次いで「雑食」(47.5%) であると回答された方が多いことが確認できた。

表 2 奈良のシカの食性

選択肢	回答者数	構成比
草食	20	50.0%
雑食	19	47.5%
肉食	0	0.0%
その他	0	0.0%
不明	1	2.5%
合計	40	100.0%

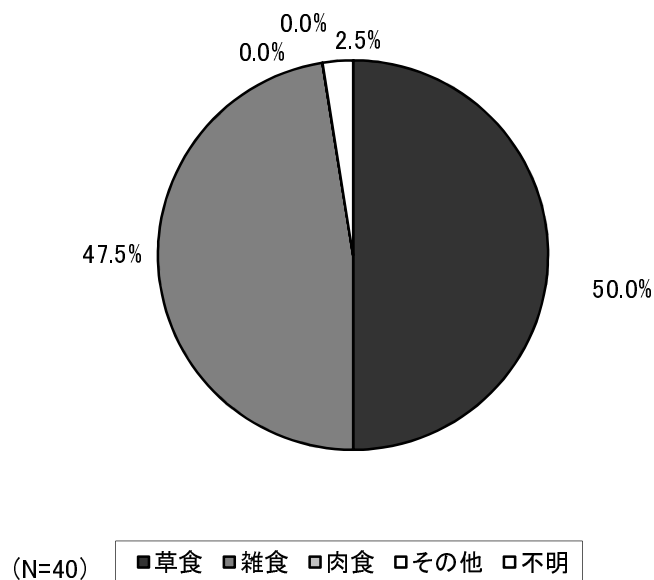


図 5 奈良のシカの食性

■栄養状態

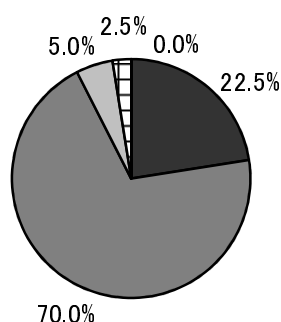
奈良のシカの栄養状態をどう思いますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

1. 栄養状態は良く、肥えている
2. 栄養状態は良いと思うが、痩せたシカも見受けられる
3. 栄養状態が悪く、全体的に痩せている
4. その他

奈良のシカの栄養状態について質問したところ、「栄養状態は良いと思うが、痩せたシカも見受けられる」と回答された方が70.0%を占めていることが確認できた。「栄養状態は良く、肥えている」(22.5%)と回答された方と合わせると、全体の92.5%の方が「栄養状態は良い」と考えている。

表 3 奈良のシカの栄養状態

選択肢	回答者数	構成比
栄養状態は良く、肥えている	9	22.5%
栄養状態は良いと思うが、痩せたシカも見受けられる	28	70.0%
栄養状態が悪く、全体的に痩せている	2	5.0%
その他	1	2.5%
不明	0	0.0%
合計	40	100.0%



- 栄養状態は良く、肥えている
- 栄養状態は良いと思うが、痩せたシカも見受けられる
- 栄養状態が悪く、全体的に痩せている
- その他
- 不明

(N=40)

図 6 奈良のシカの栄養状態

②奈良のシカが抱える課題について

■奈良公園及びその周辺の地域における課題

人とシカが共生していく上で、奈良公園及びその周辺の地域で課題になっていると思うもの全てに○を付けてください。

1. 餌場となるシバ地が少なく、痩せたシカが増えてきている
2. 人から野菜やパンを与えられ、下痢になるシカが増えてきている
3. ビニール袋などを餌と間違えて誤飲するシカが増えてきている
4. 市街地に生息しているため、交通事故が発生している
5. いたずらなど、人が奈良のシカに危害を加えている
6. 噛みつきなど、シカが人に危害を加える人身事故が発生している
7. 奈良公園の植栽や春日山原始林の植生に対して採食圧などの負荷をかけている
8. 奈良公園周辺の農作物、家庭菜園や花卉に食害を与えている
9. その他

奈良公園及びその周辺地域で奈良のシカについて課題になっていることについて質問したところ、「ビニール袋などを餌と間違えて誤飲するシカが増えてきている」(85.0%)を挙げた方が最も多く、次いで、「市街地に生息しているため、交通事故が発生している」(82.5%)、「奈良公園周辺の農作物、家庭菜園や花卉に食害を与えている」(62.5%)を挙げた方が多く、上記の3つの課題は回答者の半数以上が奈良公園及びその周辺地域で人とシカが共生していく上での課題であると指摘している。

その他の課題としては、若者や観光客、特に外国人旅行者が菓子パンやスナック菓子などをシカに与えていることなどが挙げられた。

表 4 奈良公園及びその周辺の地域における奈良のシカの課題

選択肢	回答者数	構成比
ビニール袋などを餌と間違えて誤飲するシカが増えてきている	34	85.0%
市街地に生息しているため、交通事故が発生している	33	82.5%
奈良公園周辺の農作物、家庭菜園や花卉に食害を与えている	25	62.5%
いたずらなど、人が奈良のシカに危害を加えている	16	40.0%
人から野菜やパンを与えられ、下痢になるシカが増えてきている	14	35.0%
噛みつきなど、シカが人に危害を加える人身事故が発生している	10	25.0%
奈良公園の植栽や春日山原始林の植生に対して採食圧などの負荷をかけている	10	25.0%
餌場となるシバ地が少なく、痩せたシカが増えてきている	6	15.0%
その他	3	7.5%
対象者数	40	

※対象者数とは、本質問に回答した人数（40人）

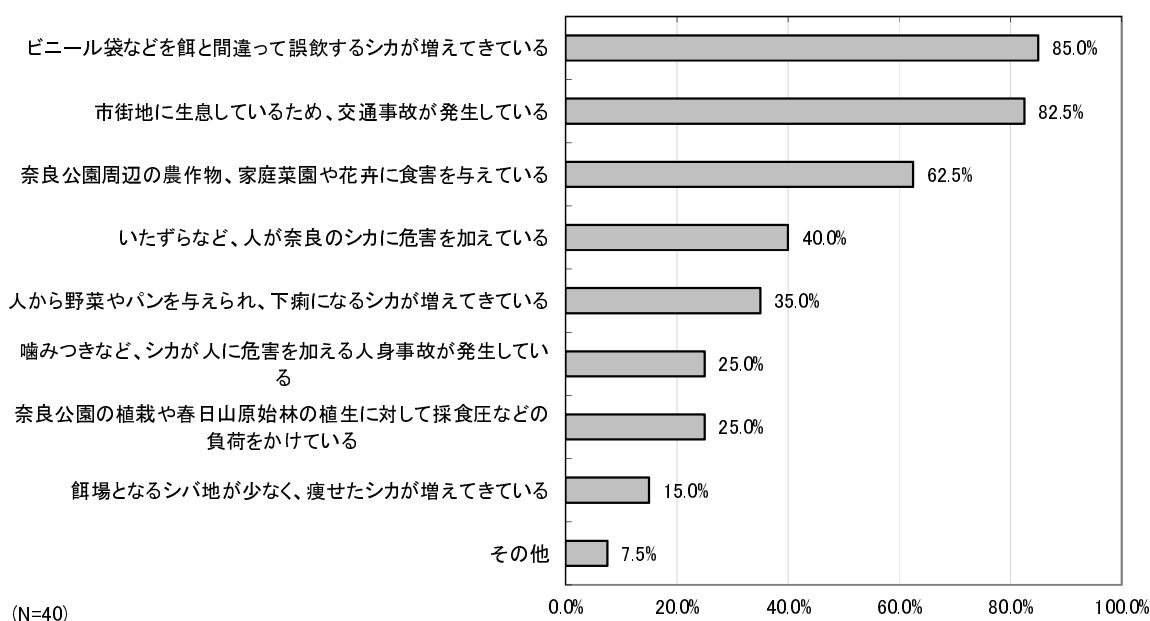


図 7 奈良公園及びその周辺の地域における奈良のシカの課題

表 5 「その他」で挙げられた課題

その他
観光客、特に外国人旅行者が、菓子パンや弁当の残りを与え空き袋を捨てて行く。その袋を食べてシカが下痢している。
下痢をしているシカは見たことがないが、人馴れがすすんでいる。
夜間に、若者がシカにスナック菓子を与えに来る車が目立ってきている。

■奈良のシカの課題について情報を入手した媒体

先に紹介したような課題をどのようにお知りになりましたか、当てはまるもの全てに○を付けてください。

1. テレビ 2. 新聞 3. 情報誌や専門誌 4. 広報誌 5. チラシ
6. facebook や Twitter などの SNS 7. 知人からの情報
8. 奈良公園に設置されている看板 9. 奈良のシカに関するイベントやフォーラム
10. 一般財団法人奈良の鹿愛護会や鹿サポーターズクラブ、県などのホームページ
11. その他

奈良公園及びその周辺地域で課題になっていることについて、情報を入手した媒体について質問したところ、「テレビ」・「新聞」(35.7%) から情報を得られた方が最も多く、次いで、「奈良公園に設置されている看板」(25.0%)、「一般財団法人奈良の鹿愛護会や鹿サポーターズクラブ、県などのホームページ」(21.4%) から情報を得られた方が多いことが確認できた。なお、その他としては、日常の生活のなかで実際に感じていることなどが挙げられた。

表 6 奈良のシカの課題について情報を入手した媒体

選択肢	回答者数	構成比
テレビ	10	35.7%
新聞	10	35.7%
奈良公園に設置されている看板	7	25.0%
一般財団法人奈良の鹿愛護会や鹿サポーターズクラブ、県などのホームページ	6	21.4%
知人からの情報	5	17.9%
広報誌	2	7.1%
奈良のシカに関するイベントやフォーラム	2	7.1%
情報誌や専門誌	1	3.6%
チラシ	0	0.0%
facebook や Twitter などの SNS	0	0.0%
その他	11	39.3%
対象者数	28	

※対象者数は、本質問に回答された人数（28人）

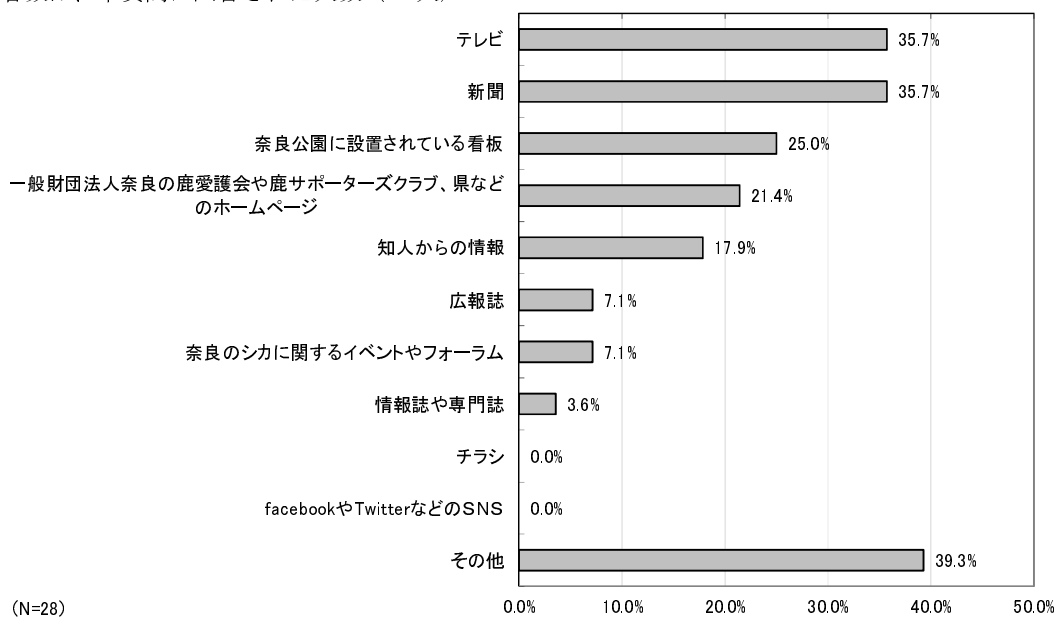


図 8 奈良のシカの課題について情報を入手した媒体

■給餌による人馴れについての認知度

先に紹介したような課題が近年増加傾向にあるのは、「給餌により人馴れが進んでいる」ことが原因の1つであると考えられています。

このことをご存知でしたか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

1. 知っていた
2. 詳しくは知らないが、聞いたことはある
3. 知らなかった

給餌により人馴れが進んだ結果、奈良公園及びその周辺の地域における奈良のシカの課題が増加傾向にあることについて知っていたかどうか質問したところ、「知っていた」(60.0%)と回答した方が最も多く、次いで、「詳しくは知らないが、聞いたことがある」(25.0%)と回答したことが多いことが確認できた。

表 7 給餌による人馴れについての認知度

選択肢	回答者数	構成比
知っていた	24	60.0%
詳しくは知らないが、聞いたことはある	10	25.0%
知らなかった	1	2.5%
不明	5	12.5%
合計	40	100.0%

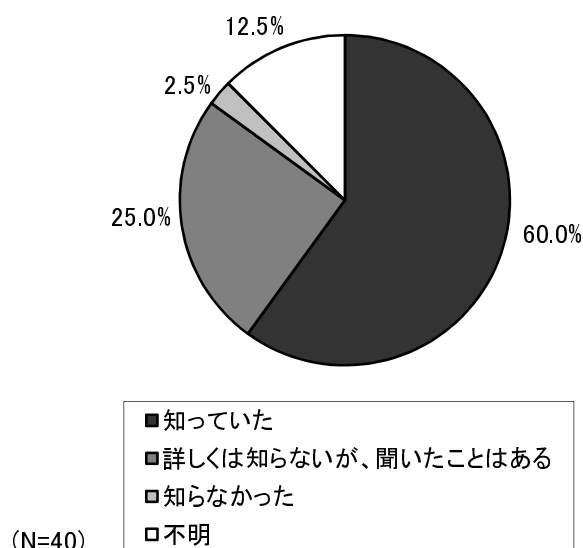


図 9 給餌による人馴れについての認知度

■給餌に対する認識

奈良のシカへ給餌することについてどのように思われますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

1. 野生動物なので給餌はすべきではない
2. 野生動物ではあるが、痩せたシカも見受けられるので、給餌もある程度必要なことである
3. 給餌することは問題ない
4. もっと積極的に給餌すべきである
5. その他

奈良のシカへの給餌に対する認識について質問したところ、「野生動物ではあるが、痩せたシカも見受けられるので、給餌もある程度必要なことである」と回答した方が、全体の55.0%を占めていた。給餌は必要であると考えている回答者（「野生動物ではあるが、痩せたシカも見受けられるので、給餌もある程度必要なことである」＋「給餌することは問題ない」）は、全体の62.5%であった。

一方、「野生動物なので給餌はすべきではない」と回答された方は全体の15.0%である。

また、給餌に対するその他の意見としては、鹿せんべいなど、観光振興の観点から必要なこともあるが、観光客による給餌など規制すべき点も考えられるなどが挙げられた。

表 8 奈良のシカへの給餌に対する認識

選択肢	回答者数	構成比
野生動物なので給餌はすべきではない	6	15.0%
野生動物ではあるが、痩せたシカも見受けられるので、給餌もある程度必要なことである	22	55.0%
給餌することは問題ない	3	7.5%
もっと積極的に給餌すべきである	0	0.0%
その他	2	5.0%
不明	7	17.5%
合計	40	100.0%

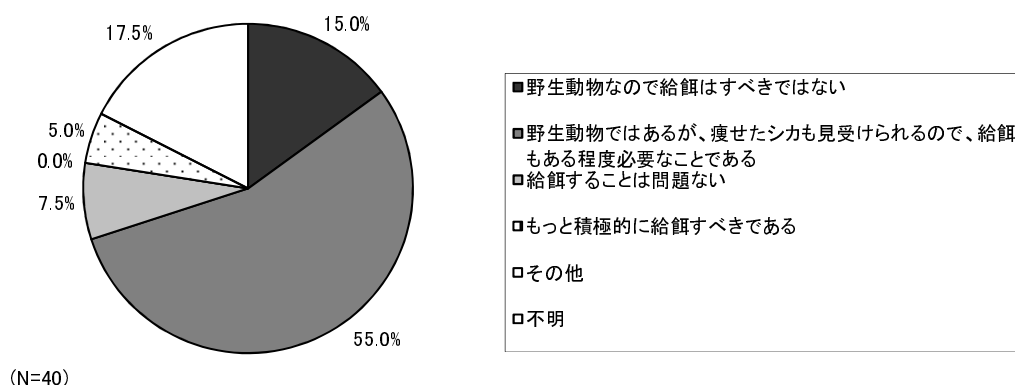


図 10 奈良のシカへの給餌に対する認識

表 9 給餌に対するその他の意見

その他
鹿せんべいを販売し人からもらっているので、給餌は仕方ない。
給餌しすぎは良くないが、餌の少ない冬場など見るに堪えないシカもいるのである程度必要である。
観光客による給餌は禁止すべきである。
奈良は「シカ」のイメージが強いためふれあいは必要不可欠である。

■給餌の有無

奈良のシカへ給餌されているのを見かけたこと、またはご自身で給餌されたことはありますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

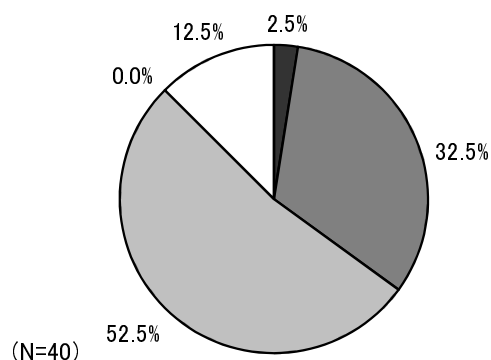
1. 給餌したことも、給餌しているのを見かけたこともない
2. 給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある
3. 給餌したことがある
4. その他

給餌の有無について質問したところ、「給餌したことがある」(52.5%)と回答された方が最も多く、次いで、「給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある」(32.5%)と回答された方が多いことが確認できた。このことから、奈良のシカへ給餌が行われていることを認識している回答者(「給餌したことがある」+「給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある」)は、全体の85.0%であった。

給餌に対する認識と給餌の有無の関係を分析すると、奈良のシカは野生動物ではあるが、痩せたシカも見受けられるので、給餌をしたことがあると回答された方が全体の37.1%であることが確認できた。

表 10 奈良のシカへの給餌の有無

選択肢	回答者数	構成比
給餌したことも、給餌しているのを見かけたこともない	1	2.5%
給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある	13	32.5%
給餌したことがある	21	52.5%
その他	0	0.0%
不明	5	12.5%
合計	40	100.0%



- 給餌したことも、給餌しているのを見かけたこともない
- 給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある
- 給餌したことがある
- その他
- 不明

図 11 奈良のシカへの給餌の有無

表 11 給餌に対する認識と給餌の有無の関係

		給餌したことも、給餌しているのを見かけたこともない		給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある		給餌したことがある	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
給餌に対する認識	野生動物なので給餌はすべきではない			3	8.6%	3	8.6%
	野生動物ではあるが、痩せたシカも見受けられるので、給餌もある程度必要なことである			9	25.7%	13	37.1%
	給餌することは問題ない			1	2.9%	2	5.7%
	もっと積極的に給餌すべきである						
	その他					2	5.7%
	不明	1	2.9%			1	2.9%
小計		1	2.9%	13	37.1%	21	60.0%
対象者数						35	100.0%

※対象者数は、給餌は必要であると回答された人数(35人)

■給餌の内容

○頻度

先の質問で「2. 給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある」、または「3. 給餌したことがある」と回答された方にお聞きします。

その頻度はどの程度ですか。

1. 毎日 2. 週に数回 3. 月に数回 4. その他

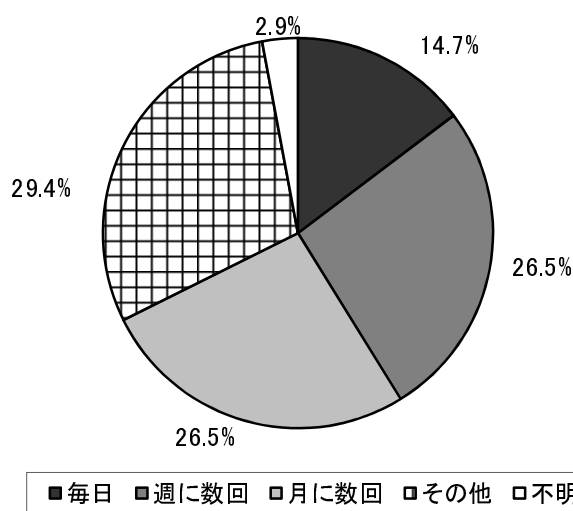
奈良のシカに対して給餌が行われていることを認識している回答者（34人）に対して、給餌の頻度を質問したところ、「週に数回」・「月に数回」（26.5%）に次いで「毎日」（14.7%）の順で、奈良のシカへ給餌をされていたり、または、給餌を見かけられていることが確認できた。

その他の頻度としては、年に数回や過去に数回が挙げられた。

表 12 奈良のシカへの給餌の頻度

選択肢	回答者数	構成比
毎日	5	14.7%
週に数回	9	26.5%
月に数回	9	26.5%
その他	10	29.4%
不明	1	2.9%
対象者数	34	100.0%

※対象者数は、給餌が行われていることを認識されている人数（34人）



(N=34)

図 12 奈良のシカへの給餌の頻度

○ 1 回の量とその内容

・ 1 回の給餌で与える量

先の質問で「2. 給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある」、または「3. 給餌したことがある」と回答された方にお聞きします。

1 回の給餌で与える量はどの程度ですか。

奈良のシカに対して給餌が行われていることを認識している回答者（34 人）に対して、1 回当たりの給餌の量を質問したところ、「ビニール袋単位 1 袋程度」（17.6%）と回答された方が最も多く、次いで、「少量の野菜くず」・「ボール単位 1 杯程度」（11.8%）と回答された方が多いことが確認できた。なかには、「ポリバケツ単位 2 杯程度」（5.9%）の量の給餌が行われていることも確認できた。

また、1 回当たりの給餌の量とその頻度の関係を分析すると、ビニール袋単位の量の給餌を月に数回（11.8%）が最も多い一方で、ポリバケツ単位の量の給餌を毎日（5.9%）行われていることも確認できた。

表 13 1 回の給餌で与える量

区分	1 回の量	回答者数	構成比
少量	少量の野菜くず	4	11.8%
ビニール袋単位	1 袋弱	2	5.9%
	1 袋程度	6	17.6%
	2 袋程度	1	2.9%
ボール単位	1 杯程度	4	11.8%
ポリバケツ単位	1 杯未満	2	5.9%
	1 杯程度	1	2.9%
	2 杯程度	2	5.9%
不明		12	35.3%
対象者数		34	100.0%

※対象者数は、給餌が行われていることを認識されている人数（34 人）

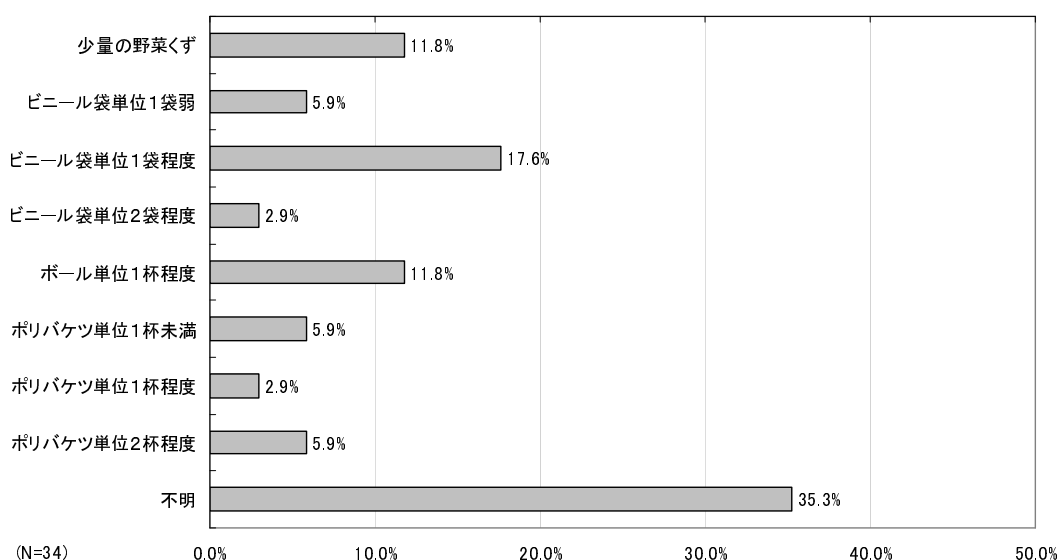


図 13 1 回の給餌で与える量

表 14 1回の給餌で与える量と頻度の関係

	少量		ビニール袋単位		ボール単位		ポリバケツ単位		不明	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
毎日					1	2.9%	2	5.9%		
週に数回	2	5.9%	2	5.9%	1	2.9%	1	2.9%		
月に数回	1	2.9%	4	11.8%	1	2.9%	2	5.9%		
その他	1	2.9%	3	8.8%	1	2.9%				
小計	4	11.8%	9	26.5%	4	11.8%	5	14.7%	12	35.3%
対象者数										34 100.0%

※対象者数は、給餌が行われていることを認識されている人数（34人）

・給餌の内容

先の質問で「2. 給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある」、または「3. 給餌したことがある」と回答された方にお聞きします。
給餌の内容は、どのようなものですか。

奈良のシカに対して給餌が行われていることを認識している回答者（34人）に対して、給餌の内容について質問したところ、「野菜の切りくず」（58.8%）が半数以上を占めており、次いで「残りご飯、米ぬか」（11.8%）が多く挙げられた。その他としては、売れずに残ったうどんや、剪定した木の枝や葉が挙げられた。

表 15 奈良のシカへの給餌の内容

給餌している内容	回答者数	構成比
野菜の切りくず	20	58.8%
残りご飯、米ぬか	4	11.8%
パンの切れ端	3	8.8%
割れて売り物にならない鹿せんべい	2	5.9%
その他	2	5.9%
対象者数	34	

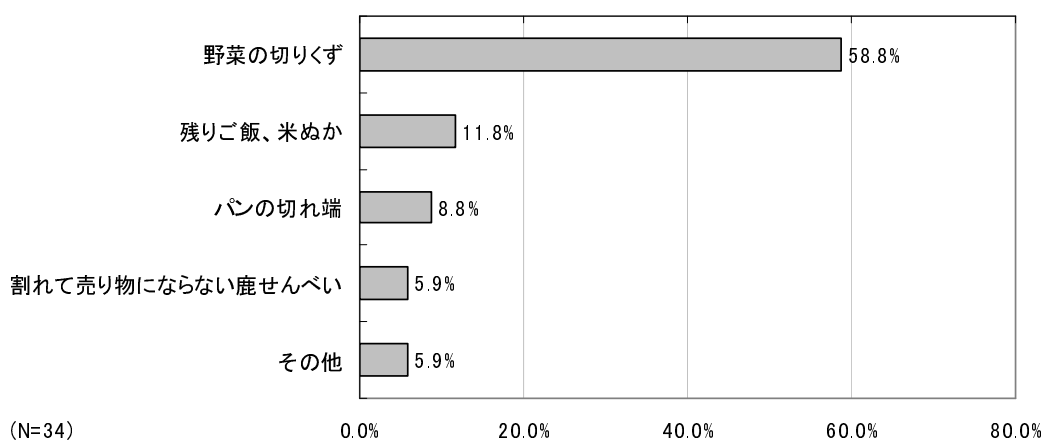


図 14 奈良のシカへの給餌の内容

■給餌に対する今後の対応

奈良のシカの給餌について、今後どのように対応していくべきだと思いますか。当てはまるものの1つに○を付けてください。

1. 給餌を止めるよう、ルールづくりを進めるべきである
2. 県が場所を決めて、そこへ餌を持ち込むようにして、担当者が給餌をすべきである
3. 県が場所を決めて、そこで給餌をしたい人が給餌できる環境を整えるべきである
4. 今までどおり給餌を続けたい
5. その他

給餌に対する今後の対応について質問したところ、「県が場所を決めて、そこへ餌を持ち込むようにして、担当者が給餌をすべきである」（30.0％）と回答された方が最も多く、次いで、「県が場所を決めて、そこで給餌をしたい人が給餌できる環境を整えるべきである」（20.0％）と回答された方が多いことが確認できた。

また、その他の意見としては、お菓子などの給餌の取り締まり、給餌に対する観光客への普及啓発の必要性などが挙げられた。

表 16 奈良のシカへの給餌に対する今後の対応

選択肢	回答者数	構成比
給餌を止めるよう、ルールづくりを進めるべきである	6	15.0%
県が場所を決めて、そこへ餌を持ち込むようにして、担当者が給餌をすべきである	12	30.0%
県が場所を決めて、そこで給餌をしたい人が給餌できる環境を整えるべきである	8	20.0%
今までどおり給餌を続けたい	3	7.5%
その他	6	15.0%
不明	5	12.5%
合計	40	100.0%

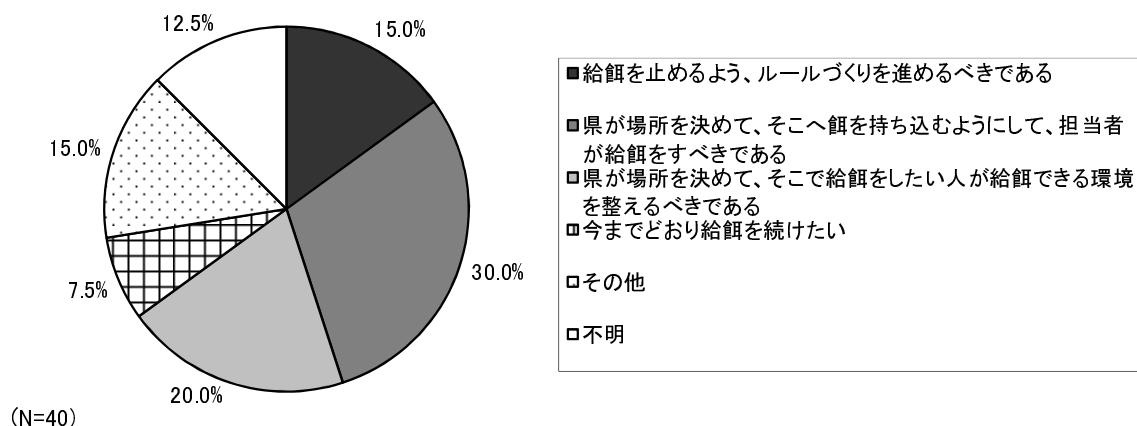


図 15 奈良のシカへの給餌に対する今後の対応

表 17 奈良のシカへの給餌に対するその他の意見

その他
野菜や米ぬかなどシカに悪影響のないものは今まで通り給餌を続けたいが、お菓子等をあたえる事は取り締まってほしい。
鹿せんべいを与えるのは問題ないと思う。
毎日の給餌を楽しみにしている夫婦もいる。
給餌について観光客の方にどうやって知って頂くかが、まず問題だと思う。

③奈良のシカの保護管理について

■保護管理の検討に求められる視点

奈良県は、奈良公園及びその周辺の地域に生息する天然記念物「奈良のシカ」を適切に保護管理するための計画づくりなど、具体の取り組みを進めています。その検討にあたって、重要な視点であると思うもの全てに○を付けてください。

1. 天然記念物（文化財）として大切に保護管理すべき
2. 古くから「神鹿」として古文書や伝承に登場し、また、万葉集などで詠われてきた歴史的背景を踏まえて、大切に保護管理すべき
3. 都市近郊に生息する野生のシカとして大切に保護管理すべき
4. 奈良公園及びその周辺地域の観光のシンボルとして大切に保護管理すべき
5. 人とシカ、植生とシカが末永く共生できるよう大切に保護管理すべき
6. その他

天然記念物奈良のシカの保護管理の検討に向けて、今後、重要となる視点について質問したところ、「奈良公園及びその周辺地域の観光のシンボルとして大切に保護管理すべき」(80.0%)と回答された方が最も多く、次いで、「人とシカ、植生とシカが末永く共生できるよう大切に保護管理すべき」(70.0%)、「古くから「神鹿」として古文書や伝承に登場し、また、万葉集などで詠われてきた歴史的背景を踏まえて、大切に保護管理すべき」(67.5%)、「天然記念物（文化財）として大切に保護管理すべき」(50.0%)と回答された方が多くともに半数を超えていることが確認できた。

表 18 保護管理の検討に求められる視点

選択肢	回答者数	構成比
奈良公園及びその周辺地域の観光のシンボルとして大切に保護管理すべき	32	80.0%
人とシカ、植生とシカが末永く共生できるよう大切に保護管理すべき	28	70.0%
古くから「神鹿」として古文書や伝承に登場し、また、万葉集などで詠われてきた歴史的背景を踏まえて、大切に保護管理すべき	27	67.5%
天然記念物(文化財)として大切に保護管理すべき	20	50.0%
都市近郊に生息する野生のシカとして大切に保護管理すべき	14	35.0%
その他	0	0.0%
対象者数	40	

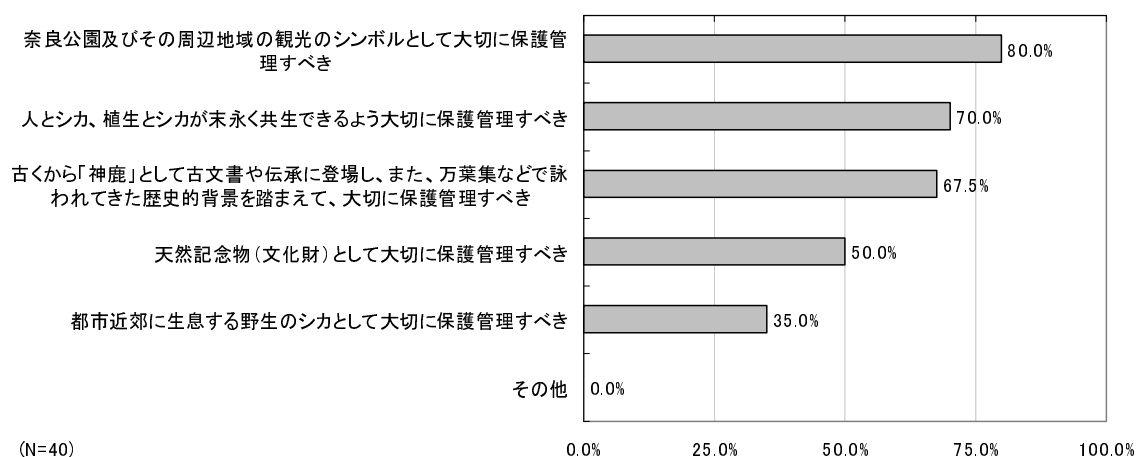


図 16 保護管理の検討に求められる視点

■保護管理の取り組みに対するアイデアや意見

天然記念物「奈良のシカ」の保護管理の取り組みについて、アイデアまたはご意見がございましたらご自由にお書きください。

天然記念物奈良のシカの保護管理の取り組みについて、取り組み全般、鹿害対策、交通事故、給餌、観光資源としての活用、公園整備等について以下の意見が挙げられた。

区分	主旨
保護管理の取り組み全般について	・シカの保護管理については、神鹿であること、シカあつての奈良公園であることを忘れずに取り組んでいくべきである。 ・獣医を増員し、常駐にするなど体制を充実すべきである。 ・公園内で何カ所に鹿舎を造り体調等を定期的に視察、保護管理する。 ・鹿の頭数はここ数年安定しているが、雌ジカが多いので、雄ジカの保護管理が重要であるとする。 ・人間と共に共存していく上で、シカもがんばって生きている事を実感する。冬になると竹柵や植物を壊してくれるのは少々悲しい出来事であるが、それも自然の中での出来事として笑い話にしている。ただ、季節によっては、相当、人に対して、危害を加えてしまう所をしばしば見かけており心配である。人間とシカの信頼関係を保つべき事だと思う。そのためのシカに対して基本的なルールをまず、守ることが大切だと考えているが、これがなかなか守る事の出来ない難しい課題である。
鹿害対策について	・天敵がいないうシカを保護管理するということは、自然のバランスを崩してしまう可能性がある。保護管理が進んだ結果、頭数が増加し農作物被害等の鹿害がさらに増えるということも考えられるので、自然保護の本質的な考えからより良い奈良独自の社会を築きあげる取り組みをしてほしい。その取り組みの一環として、給餌の問題も解決が進むのではないかと考える。 ・公園外で農作物に被害を与えてしまうようになったシカは可哀想であるが処分することも検討すべきである。 ・全国的に鹿害が増加している状況において、天然記念物奈良のシカの保護管理の必要性も理解できるが、鹿害を与える個体については取り扱いを検討すべきである。 ・公園平坦部にいるシカと若草山の奥にいるシカは性質が違ふ。若草山のシカは人馴れをしておらず木の幹を食べたりする。そのシカが人の少ない冬場に公園平坦部で桜の木の幹の皮を食べたり、その他の木の幹の皮を食べたりしているため徐々に木が傷んでいる。
交通事故について	・公園周辺での交通事故の発生数を減らすためにも、道路舗装の色彩をかえる取り組みとともに、段差をつけるなど、車のスピードを落とすような工夫をするべきである。シカが生息しているエリアを車が通行させてもらっているという意識を啓蒙すべきだと考える。

交通事故について	・交通事故を未然に防ぐため、注意喚起のための路上の鹿マークはいいアイデアであり、出来れば車の最徐行の標識（特に循環道路東側道）をして併せて整備してほしい。 ・市街地に入らない様な工夫をする。裁判所内の芝生の庭、車道のグリーンベルトに鹿が出入りしているのは危険だと思う。新公会堂の道（車道）のドングリを食べるのも危険だと思う。
給餌について	・シカは、古くから「いわれ」「シンボル」であるので共存は必要であるが、基本的には野生という位置づけは変えるべきではない。よって給餌は反対である。 ・そもそも古くから人より鹿せんべいというエサをもらっているシカにとって、給餌されたものを区別することは難しい。それは、人を信用しているからであり、公園内で営みをしている当事者は、シカとの付き合い方を理解しているが、公園外から給餌にくる方が問題である。 ・観光に鹿を利用して鹿せんべいも与えているので、色々問題が複雑になっている。 ・給餌をするにしても与えるものの内容を検討する必要がある。 ・野菜、果物、米などを給餌したい方は、持ち込む場所を決めて給餌するなどして、それ以外の給餌は取り締まるべきである。 ・給餌してはいけないものなど、禁止事項についての啓発看板、パンフレットを作成する。県民も含めて、シカの生態について理解を深めるための努力が必要である。 ・シカが何でも食べるからと面白がって菓子や弁当の残りを与えたり、特に、外国人による給餌が良く見かけられるようになった。旅行会社から事前に注意するなど、意識改革用のパンフレットの配布や注意喚起用の看板の設置が必要である。 ・ビニール袋やビニール製の紙を誤飲しないように注意を払うべき。
観光資源としての活用について	・観光振興として「シカ」は良い意味での広告塔になってもらう必要がある。市観光協会ではないが、しかまるの様な手広く誰にでも分かりやすい方法でアピールをしていく。その上で奈良に来て頂いた時に本物とふれあえるものの一つの取り組みにすればよいと思う。 ・観光客への鹿を通した環境保全の策の一つとしてアピールする。
公園整備について	・夜間、照明が消灯され、対向車のライトの関係もあり視界が狭まり路上にいるシカに気づきにくい。道路舗装が茶色になってからは特に見えづらくなった、夜間も照明をつけるなど、明るさを確保すべき。 ・夜間でも、看板や道路標示を目立つようにわかりやすくしてほしい。 ・若草山山麓園地は公園整備で景観的に良くなったが、樹木が少なくなりシカがくつろげる日影が減った。今後、公園整備を進めていくにあたっては、シカにとっても快適な環境づくりを行えるような整備計画を検討してほしい。
その他	・奈良公園へ犬を連れて散歩にやってくる人がいるが、シカは犬を怖がるので、犬の散歩はやめにしてほしい。

④調査票

3. 奈良のシカの保護管理についてお聞きします。 (1) 奈良県は、奈良公園及びその周辺の地域に生息する天然記念物「奈良のシカ」を適切に保護管理するための計画づくりなど、具体の取り組みを進めています。その検討にあたって、重要な視点であると思うもの全てに○を付けてください。 1. 天然記念物（文化財）として大切に保護管理すべき 2. 古くから「神鹿」として古文書や伝承に登場し、また、万葉集などで詠われてきた歴史的背景を踏まえて、大切に保護管理すべき 3. 都市近郊に生息する野生のシカとして大切に保護管理すべき 4. 奈良公園及びその周辺地域の観光のシンボルとして大切に保護管理すべき 5. 人とシカ、植生とシカが永らく共生できるよう大切に保護管理すべき 6. その他（ ） (2) 天然記念物「奈良のシカ」の保護管理の取り組みについて、アイデアまたはご意見がございましたらご自由にお書きください。 (自由記入欄)
--

***** 協力有難うございました。アンケートは以上です。*****

4

天然記念物「奈良のシカ」に関するアンケート	
店舗名	
1. 奈良のシカについてお聞きします。 (1) 奈良のシカは、野生動物だと思いますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。 1. 純粋な野生のシカである 2. 人馴れが進んでいるが、野生である 3. 飼育されている 4. その他（ ） (2) 奈良のシカは、何食だと思いますか。当てはまるもの1つに○を付けてください 1. 草食 2. 雑食 3. 肉食 4. その他（ ） (3) 奈良のシカの栄養状況をどう思いますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。 1. 栄養状態は良く、肥えている 2. 栄養状態は良いと思うが、痩せたシカも見受けられる 3. 栄養状態が悪く、全体的に痩せている 4. その他（ ）	
2. 奈良のシカが抱える課題についてお聞きします。 (1) 人とシカが共生していく上で、奈良公園及びその周辺の地域で課題になっていると思うもの全てに○を付けてください。 1. 餌場となるシバ地が少なく、痩せたシカが増えてきている 2. 人から野菜やパンを与えられ、下痢になるシカが増えてきている 3. ビニール袋などを餌と間違えて誤飲するシカが増えてきている 4. 市街地に生息しているため、交通事故が発生している 5. いたずらなど、人が奈良のシカに危害を加えている 6. 噛みつきなど、シカが人に危害を加える人身事故が発生している 7. 奈良公園の植栽や春日山原始林の植生に対して採食圧などの負荷をかけている 8. 奈良公園周辺の農作物、家庭菜園や花卉に被害を与えている 9. その他（ ）	

1

図 17 調査票 A 3 二つ折り（左 4 頁、右 1 頁）

(2) (1) で紹介したような課題をどのようにしてお知りになりましたか。当てはまるもの全てに○を付けてください。 1. テレビ 2. 新聞 3. 情報誌や専門誌 4. 広報誌 5. チラシ 6. facebook や Twitter などの SNS 7. 知人からの情報 8. 奈良公園に設置されている看板 9. 奈良のシカに関するイベントやフォーラム 10. 一般財団法人奈良の鹿愛護会や鹿サポーターズクラブ、県などのホームページ 11. その他（ ） (3) (1) で紹介したような課題が近年増加傾向にあるのは、「給餌により人馴れが進んでいる」ことが原因の1つであると考えられています。 このことをご存知でしたか。当てはまるもの1つに○を付けてください。 1. 知っていた 2. 詳しくは知らないが、聞いたことはある 3. 知らなかった (4) 奈良のシカへ給餌することについてどのように思われますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。 1. 野生動物なので給餌はすべきではない 2. 野生動物ではあるが、痩せたシカも見受けられるので、給餌もある程度必要なことである 3. 給餌することは問題ない 4. もっと積極的に給餌すべきである 5. その他（ ） (5) 奈良のシカへ給餌されているのを見かけたこと、またはご自身で給餌されたことはありますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。 1. 給餌したことも、給餌しているのを見かけたこともない 2. 給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある 3. 給餌したことがある 4. その他（ ）

2

(6) (5) で「2. 給餌したことはないが、給餌しているのを見かけたことがある」、または「3. 給餌したことがある」と回答された方にお聞きします。 ①その頻度はどの程度ですか。 1. 毎日 2. 週に数回 3. 月に数回 4. その他（ ） ②1回の量はどの程度ですか。また、その内容を以下の自由記入欄へお書きください。 1回の量 自由記入欄（例：ボリワツ3杯程度 等） その内容 自由記入欄（例：さで出る豚肉、野菜の切り屑 等） (5) 奈良のシカの給餌について、今後どのように対応していくべきだと思いますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。 1. 給餌を止めるよう、ルールづくりを進めるべきである 2. 県が場所を決めて、そこへ餌を持ち込むようにして、担当者が給餌をすべきである 3. 県が場所を決めて、そこで給餌をしたい人が給餌できる環境を整えるべきである 4. 今までどおり給餌を続けたい 5. その他（ ）
--

3

図 18 調査票 A 3 二つ折り（左 2 頁、右 3 頁）